

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報

				令和	4	年度
事業番号	837		事業名	若桜鉄道対策費		
担当課	企画課	担当係	若桜鉄道運行対策室	担当者	保木本 幸雄	
総合計画に最も関連ある施策	施策	3	安心安全な暮らしづくり	連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	2	道路・交通環境の充実	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規	
	主な事業	若桜鉄道対策事業			<input checked="" type="checkbox"/> 継続	
予算区分	款	2	総務費	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 八頭町	
	項	1	総務管理費		<input type="checkbox"/> その他	
	目	19	若桜鉄道対策費	計画期間	開始	平成21年度
	事業	837	若桜鉄道対策費		終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 町民、観光客等		
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 安全で安定した若桜鉄道の運行を維持するとともに、鉄道利用客の利便性の向上を図る。また、若桜鉄道を活用した観光振興を図る。		
事業の内容・手段	事業の規模や業務量など、どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 第3種鉄道事業者として、地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による車両・軌道設備の更新、鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等管理業務を行う。その運行・管理業務は、第2種鉄道事業者である若桜鉄道(株)へ委託する。 また、若桜町・鳥取県・鳥取市・若桜鉄道で組織する若桜鉄道利用促進実行委員会では、通学定期購入費支援や、鉄道グッズ、イベントなどを展開し、鉄道の利用促進と乗車気運の醸成を図る。		
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の黒字化を目指す。		
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし	法令等名→ 鉄道事業法

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし
	A	人	輸送人員
	B		
	C		
	D		
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし
	A	千円	若桜鉄道(株)経営収支
	B		
	C		
	D		

4 コスト

区分	単位	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度		R5年度	
		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
活動指標	A	人	353,930	365,721	370,500	377,972	371,000	475,170	480,500
	B								
	C								
	D								
成果指標	A	千円	87	△ 2,493	270	△ 3,470	100	743	100
	B								
	C								
	D								
トータルコスト	千円	359,109	178,044	196,627	187,696	200,643	206,572	222,103	
担当職員数	人	1.0	1.00	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
職員人件費	千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	
事業費	千円	351,109	170,044	188,627	179,696	192,643	198,572	214,103	
事業費財源内訳	千円	114,350	22,746	22,780	27,139	19,307	27,467	23,467	
国庫支出金(交付金・補助金)	千円	18,273	22,474	23,422	21,159	22,959	23,253	25,319	
県支出金(交付金・補助金)	千円	137,100	83,100	86,300	84,000	95,300	93,800	100,600	
地方債(借入金)	千円	79,809	34,364	54,761	46,246	53,754	52,959	63,203	
事業収入(使用料・参加費等)	千円	1,577	7,360	1,364	1,152	1,323	1,093	1,514	
一般財源(単町費)	千円								

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

令和 4 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に) ・公有民営化方式により八頭町・若桜町が軌道や車両の保守・維持管理及び設備改良等を実施し、年間を通して安全な旅客輸送を確保した。 ・新型コロナウイルス感染症の波があったものの、県外イベントへの参加並びに体験型ツアーの実施などを積極的に行い、営業外収益を確保することに務めた。 ・国の交付金を活用し、年間を通して様々な運行支援策(燃油代補助、運行支援金の交付、観光キャンペーン)を実施、運行ダイヤの維持と輸送人員の確保に務めた。 ・JR西日本や智頭急行と連携し、鉄道の魅力発信と新たな鉄道ファン獲得に向けた企画(京都鉄道博物館事業・あめつち運行事業)を実施した。
	成果(具体的に) ・これまで町が行ってきた通学定期助成を継続して実施したほか、若桜駅を中心にイベントを実施したことで、普通旅客並びに通学旅客の輸送人員は前年を大きく上回り、旅客収入はコロナ前の98%まで回復した。 ・情勢の変動による資機材や人件費等の高騰により、企業努力による経費削減の成果を出すことが難しい中、乗客の利便性や現行のダイヤを維持するために新たな運転士等の採用(2名)、育成を図り、JROB職員(1名)から技術・知識の継承、工務係員の新規採用を積極的に行い、安定した定時輸送を維持するため組織の体制強化が図られた。 ・新型コロナウイルス感染症の波があったものの、イベント等を積極的に行い、最終的な決算では74万円余りの黒字となり、3期ぶりの黒字となった。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	・通学や通勤、また、高齢者の方など生活における移動手段の確保を図るため、大量輸送のできる公共交通としての鉄道の維持・確保は必要である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけな	・八頭町は、第三種鉄道事業者として鉄道の安全輸送を確保する必要があるため、妥当性は高い。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無い)	13	20	①効率的である	・鉄道施設整備の施工業者は一般の公共工事に比べて限定されるため、コストが割高となる傾向にあるが、委託先の若桜鉄道(株)においては修繕・工事の発注に際して指名競争を実施しており、価格の公平性を確保しているほか、一定の修繕、補修などを直営で実施しており、経費削減に努めている。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	20	20	①緊急性が高い	・地域住民の生活交通を確保するとともに、観光振興による地域活性化を図るためにも、早急な対応が必要である。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	・鉄道の安全輸送は維持することができたが、今後も若桜鉄道の乗車人員や旅客収入を維持していくためには一層の営業努力が必要であり、また情報発信を積極的に行い認知度を高める必要がある。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	
合計	86			

7 町の方向性・方針

事業の方向性	問題点及び今後の課題・方向性
2	(事業活動に当たり、一番の問題点として捉えていること。重点的に手当とする事柄、改善点、工夫したい箇所) ・運輸士や指令業務、保線業務にあたる職員の高齢化が進み、次世代職員の育成が急務である。 ・全国各社慢性的なマンパワー不足となっており、人材や施工業者の確保が難しくなっている。 ・旅客収入を飛躍的に増加させることは困難であることが予想され、鉄道関連イベントへの参加や情報発信を積極的に行い、営業外収益を確保することで、安定した経営を維持することが必要である。 (上記問題点を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか) ・計画的な職員採用を継続して実施し、経費削減と外部委託業務の精査を図る。 ・都市圏で実施するイベント等に積極的に参加し、若桜鉄道のPRやグッズ販売を行い、営業外収益の確保を図る。 ・JRや智頭急行と連携して、鳥取県への誘客促進事業をすすめ、鉄道を活用した観光振興を進める。 ・電子決済サービスの導入を検討し、都市圏ならびにインバウンドに対応した公共交通利用者のシームレスな移動が可能となるよう、関係団体と連携していく。
1 拡充する	
2 改善・効率化し継続	
3 現状維持	
4 見直しの上縮小する	
5 終期設定し終了	
6 廃止	